

「こどもの読書週間」が始まります！（4月23日～5月12日）

この標語は、第61回「こどもの読書週間」の標語です。こどもの読書週間は、「子どもたちにもっと本を！」との願いから、昭和34年に誕生しました。

第1回は、日本書籍出版協会児童書部会が中心となって4月27日から5月10日まで開催しました。この年はポスターではなくしおりを作成し、東京都内の書店やデパートで配布したそうです。その後「子ども読書年」である平成12年に現在の期間に変更されました。

本市では、毎月23日を「福岡市子どもと本の日」としています。平成13年12月に公布された「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、4月23日が「子ども読書の日」※と定められたことに基づいています。

国が、4月23日を「子ども読書の日」としたのは、イギリスの文豪シェイクスピアとスペインの文豪セルバンテスの命日であるこの日をユネスコが「世界図書・著作権デー」と宣言したことなどにちなんだものと言われています。

また、4月30日は図書館記念日です。昭和25年4月30日に、図書館は無料の公共サービスである、という当時としては画期的な理念の図書館法が公布されたことを記念して設けられました。

学校でも、「こどもの読書週間」などに子どもたちが読書のすばらしさを感じ取れるような取組を実施したいものです。

※ 国民の間に広く、子どもの読書活動への関心と理解を深め、子どもの読書活動意欲を高めるために設けられました。

こども読書週間のポスターやロゴ、マーク、しおりなどは、同協議会のホームページからダウンロードできます。

👉「読書推進運動協議会」のHPアドレス：<http://www.dokusyo.or.jp>



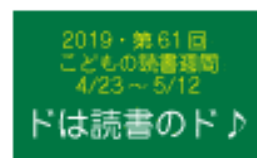
（こどもの読書週間のポスター）



（こどもの読書週間のマーク）



（こどもの読書週間のロゴ）



（こどもの読書週間のリンクバナー）

Hello! 学校図書館

〈平尾小学校〉
その2

今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

平尾小学校は、34級1083名の学校です。読書センター・学習センター・情報センターとしての機能が果たせるように、本に興味を持たせ、読みたくなるようにみんなが力を合わせていろいろな工夫をしている素晴らしい図書館です。

○ 図書館の本に興味を持たせるような工夫

本の表紙を見せる配架をするだけでなく、図書館ボランティアが作成した本のおもしろいところを短く、分かりやすく紹介したポスターと一緒に展示しています。



(手前から閲覧用机、絵本を配架した書架、図書館カウンター、図書カウンターの左奥に絵本コーナー)



(絵本を配架していたが、紹介したポスターだけが残っている)



(「小学生読書リーダー」が書いたPOPを掲示板に掲示)



(絵本を配架している書架に表紙を見せて配架している絵本)



(図書館カウンター前に木で作った「どうぞのいす」を置き、その上に「にんべん」の本を配架)



(「介護犬」「小説・マンガで見つける！すてきな仕事」など表紙を見せて配架)

○ 新刊本の紹介の工夫

図書館カウンター横では新刊本の表紙を見せた配架をするだけでなく、「あたらしい本のリスト」やあたらしい本の表示方法を展示して新刊本の紹介をしています。



(図書館カウンター横の新刊本の配架)



(「あたらしい本のリスト」と「あたらしい本いちらんひょう」の展示)



(「あたらしい本いちらんひょう」の内容)



(あたらしい本の表示方法を展示)

○ 本を読みたくなるような工夫

バレンタインデーの時期に合わせた本を展示したり、「校長先生のおススメ本！」や名作を紹介したりしています。また、やかまし村文庫の方に読み聞かせしてもらった本を、「やかまし村文庫の本」コーナーに展示、紹介しています。



(校長先生の推薦本と推薦文を一稿に展示しているコーナー)



(書架の上に、色画用紙で「バレンタインデーに、なにをつくる?」と表示)



(「長くつ下のピッピ」を名作として紹介)



(読み聞かせをした「やかまし村文庫の本」を配架)

○ 「学習センター」「情報センター」としての機能を高める工夫

同じ分類の本の中で高さをそろえたり、分類によって差し込みの色を変えたりして、本を探しやすく返却しやすくしています。



(本の高さをそろえた書架)



(5類が青、6類が赤の差し込み)

図書館の本を使って調べるための方法を「としょかんで上手に調べる8つのヒント」としてまとめています。



(子どもたちの目につき、手にとりやすいように書架の上に置いている「としょかんで上手に調べる8つのヒント」)



(「① 図書館マップをつかう!」と書かれた、上手に調べる8つのヒントの1番目)



(「③ ちがう分野にもアタック!」と書かれた、上手に調べる8つのヒントの3番目)

○ 図書館を活用したくなる書架や閲覧用機の整備

高さの低い書架をそろえ、PTAから書架を寄贈してもらったり、閲覧用機の数を6つに減らして移動しやすくしたりしているため本の蔵書が増え、落ち着いた開放感あふれる図書館になっています。



(「9 文学」を配架した図書館後方の3本の4段書架、5段の背面書架には「4類」「5類」「6類」を配架)



(改修で背面書架が2段だったため、その上に3段書架をPTAが寄贈して5段になった書架)



(図書館前方に絵本を配架した3本の書架)

5月生まれの文学者



西 加奈子（にし かなこ）と「あおい」

1977年5月7日 イラン テヘラン生まれ

父の仕事の関係からテヘランで生まれた西氏は、2歳の時イラン革命が起きたため帰国し、大阪で過ごしました。その後、小学1年から5年生まではエジプトのカイロで日本人学校に通い、帰国してからは、大阪の大規模な小学校に通いました。

高校2年の時、装丁にひかれて買って読んで「青い眼がほしい」という本から、「言葉ってこんな力があるのだ。」と、今までで一番すごい衝撃を受けたそうです。

関西大学法学部卒業後は、就職せずにアルバイトをしながら、大阪でチケット事業などを行っている「ぴあ」でライターとして店の紹介記事などを書いていました。

25歳ぐらいの時に小説が書きたくなり、最初は短編で、1月から12月まで月ごとの話を書きました。その時に書いた12月の話は、後に出版する「さくら」の元になりました。

「あおい」を一月ほど書きあげると、どうしてもこれを出版して作家になろうと思い東京に引っ越しました。小学館の担当者を紹介してもらおうと、すぐ、出版することが決まり、2004年「あおい」で作家デビュー、翌年「さくら」が大ヒットしました。

西氏が家事の間に仕事と読書をしているのは、他に何かしなければならない用事があったほうが書けるからだそうです。

作品は、「サラバ!」（直木賞）、「ふくわらい」、絵本では「きいろいゾウ」「きみはうみ」などがあります。



三木 卓（みき たく、本名 富田三樹）と「ふたりはともだち」

1935年5月13日 東京都淀橋区(現在の新宿の西部)生まれ

三木氏は、2歳の時に南満洲鉄道に就職した父について満州にわたり、4歳の時に小児マヒにかかり左足首に後遺症が残りました。1946年父がチフスで亡くなり、その年の秋に6年間住んだ満州から引揚げ、母の出身地である静岡市に住みました。

帰国してからは母子家庭で生活が大変な中、早稲田大学第一文学部露文科に入学した後は詩作活動に励み同大学院にも進学しましたが、1960年大学院を中退しました。

河出書房新社に就職後、ロシア文学の翻訳をはじめましたが、1968年に退職し、童話創作と童話の翻訳に専念しました。その後、小説も書き始め、1973年「鶉」（ひわ）で芥川賞を受賞し作家としてスタートしました。

「ふたりはともだち」（アーノルド・ロベール作）は、絵本を翻訳した初めての作品です。翻訳を依頼され初めて原書を読んだときは、にこにこしながら読み、一月ほどで翻訳しました。その時は、ここまでロングセラーになるとは思わなかったそうです。

作品は、「小嘶集」^{こぼなししゅう}（芸術選奨文部大臣賞）、児童文学「ぼたぼた」（野間児童文芸賞）など多数あります。三木氏は、紫綬褒章や日本芸術院恩賜賞を受賞し、2011年春の叙勲で旭日中綬章を授与されました。

□ 「**新1年生へのおすすめ本リスト**」を配布しました！

生涯学習課では、小学校・中学校に入学する子どもたちを対象に、学校の先生たちが選んだおすすめ本リストを作成しており、今年度で7回目になります。

おすすめ本は小学校や中学校の各教科の研究委員会や研究会に依頼し、推薦していただきました。

右の図は小学生向けの今年のおすすめ本リストチラシの画像です。

学校では、学校図書館の特設展示コーナーでの紹介や新規購入本の参考にご活用ください。リストの内容は、下記のホームページでも紹介しています。

また、このホームページでは次のようなリストも閲覧できます。こちらもぜひ、ご活用ください。



閲覧できるリスト：

- ・ 図書館員のひみつの本棚（子どもの発達段階別に掲示）
- ・ 図書館員が選んだおすすめの100冊
- ・ 斎藤惇夫先生（児童文学作家）おすすめのリスト
- ・ 松岡享子さん（東京子ども図書館名誉理事長）おすすめのリスト

おすすめ本の紹介サイト：アドレス：

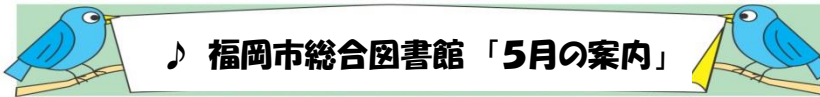
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/shogaigakushu/ed/012.html>

♪ **福岡アジア美術館「5月の案内」**



*** アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ**

- 12日（日），14日（火），※18日（土），※19日（日）
- ※25日（土），※26日（日），28日（火）
- ※は、ミュージアムウィーク（5/18～5/26）につき、特別開催日です。
- ・ **時 間** 11:30～12:00 13:00～13:30
- ・ **場 所** 7階「キッズコーナー」（申し込み不要）



♪ 福岡市総合図書館「5月の案内」



* 毎月のおはなし会

4日(土), 11日(土), 12日(日), 18日(土)
19日(日), 25日(土), 26日(日)

・時間 土曜日: 4日, 11日, 18日

14:10~14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30~14:50 幼児向けおはなし会

25日

14:30~15:00 幼児~小学生向けおはなし会

日曜日: 14:30~15:00 幼児向けおはなし会

15:15~15:45 小学生向けおはなし会

・場所「こども図書館 おはなしの家」

❖ 総合図書館からのお知らせです!

こどもの日特別おはなし会・わらべうたであそぼう

- 日時 5月5日(日) 14:00~15:20
- 場所 ・第一会議室(幼児向け)
・第二会議室(小学生向け) ※どちらも3階です。
- 内容 ・絵本の読み聞かせ ・大型絵本の読み聞かせ
・紙芝居 ・人形劇 など
- その他 ・申し込み不要 ・参加料無料

☆ あとがき

本年度も「福岡市子どもと本の日」通信では、学校図書館の運営・活用に役立つ情報の提供、福岡市総合図書館や福岡アジア美術館などの読書活動の紹介などに努めてまいります。また、学校図書館の運営・活用に役立つ情報の提供では、読書週間中の活動だけでなく、学校で日常的に取り組まれている読書活動などを紹介していきます。そして、文学者の紹介では、作家になろうと思ったきっかけやエピソードなどを紹介して、興味を持てる内容にしていきたいと思っております。

「福岡市子どもと本の日」通信を、よろしく申し上げます。

図書館員のひみつの本棚 第156回

幼児から大人まで楽しめる絵本です。

『かえでがおか農場のなかまたち』

アリスとマーティン・プロベンセン／作・絵 乾 侑美子／訳 童話館出版

1998年 2400円（税抜）

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆ 低学年☆☆☆ 中学年☆☆☆ 高学年☆☆ 中学生☆
高校☆ 一般☆

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

かえでがおか農場に住む動物たちを紹介した絵本。子どもが嫌いなオンドリのオオイバリ、きれいだけどただじっとしているだけで、見ていて面白くないネコのヤナギ、怖いものなしのヤギのサムなど、ペットではない、農場の動物たちの動物らしさを、愛情とユーモアたっぷりに紹介してくれます。ストーリーはありませんが、縦32cm、横23・5cmという大きなページに描かれた、個性的で魅力的な絵と、軽快でユーモラスな文章が、かえでがおか農場の動物たちが本当に私たちの前にいるかのように感じさせてくれます。

<子どもに手渡す時のポイント>

大判なのと、ストーリーがないことなどから、集団への読み聞かせには向きませんが、家族や友達などと一緒に、じっくり見ながら、面白いところを語りあって楽しむといいと思います。もちろん、一人で読んでも楽しい絵本です。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

